

令和6年度 第5回 藤沢市立八松小学校 学校運営協議会議事録

開催日時 2025年2月20日（木）午前10時～12時

場 所 八松小学校 第2多目的室

出席委員等	<p>植木 菊治 （会長／辻堂地区民生委員） 瀧谷 典子 （副会長／八松小学校校長） 中尾 安伸 （明治中学校校長） 山本 あや （本校在籍児童保護者） 若林 理恵 （藤沢市社会福祉協議会 コミュニティ・ソーシャルワーカー） 小野 登紀子 （明治地区民生委員児童委員） 猿渡 智香子 （辻堂二葉幼稚園園長） 小林 美幸 （明治地区民生委員児童委員協議会主任児童委員） 梶居 亮子 （八松子どもクラブ クラブ長）</p> <hr/> <p>出席委員：10名（欠席委員：4名） オブザーバー（明治公民館1名、教育総務課1名）</p>
次第	<p>1 開 会 2 会長あいさつ 3 議 題 (1) 今年度の取り組みの成果と課題 ① リソースルーム ② 学習支援ボランティア、子どもの見守りについて ③ 幼稚園、保育園、小学校、中学校の指導の連続性や連携 ④ 地震等災害への対策 (2) 2024年度学校評価について 4 その他 2025年度学校運営協議会委員の継続について 5 閉 会</p>
協議内容	<p>協議内容 3 (1) 今年度の取り組みの成果と課題 ・副会長 ① リソースルーム 教室へ行くことが難しい児童が、自分らしく学びを続ける環境があることで学校へのプレッシャーが減り、心の安定につながったことや学び続けることが可能になったことは成果と言える。また、学校運営協議会委員に、リソースルームを見守る「協働活動サポーター」を地域の中から人材を探してもらい、数名協力していただける方が見つかった。延べ38人の方にご支援をいただいた。しかし、毎日リソースルームを開くためには、見守る人が足りない。 ② 学習支援ボランティア、子どもの見守りについて 5年生の手縫いやミシンの学習、2年生は、収穫したさつまいも畑の開墾や収穫後の調理を保護者ボランティアに依頼した。3月には、3年生が、学区内でウォークラリーを行う際、辻堂まちづくり会議の方、保護者にお手伝いいただく。豊かな教育やきめ細やかな支援が可能になり、大変ありがたかった。また、20分休みに介助員が児童玄関に立ち、校庭へ遊びに行く子どもたちや遊びから帰ってくる子どもたちを見守ったり、声を</p>

かけてもらったりした。それを始めてから、児童の下駄箱から靴が見当たらなくなった
り、動かされたりといったことが起こらなくなった。校内で、子どもたちを温かく見守
ってくれる大人がいることは、子どもたちの安心につながる。市の介助員予算には限り
がある。児童が複数の場所へ行き掃除をする時間や給食指導をする時間など、担任以外
にも大人の見守りや支援がほしい教育活動は、他にもたくさんある。学校が求めている
ことに力をかしていただける地域の人材を探すために、学校と地域をつなぐコーディネ
ーターの役割を担っていただく方が必要だ。委員のどなたかが担ってほしい。地域につ
ながりのある方、加えて、学校のことを理解してくださる方が理想的だ。

③ 幼稚園、保育園、小学校、中学校の指導の連続性や連携

1月から3月にかけて、園児と小学校1年生との交流や6年生が中学校へ行き交流体験
をする活動が行われた。入学前に進学後の体験や見学をすることで、スムーズな適応に
つながる。

④ 災害時の児童用食料などの備蓄について

第4回学校運営協議会の協議を受けて学校でも検討し、2025年度4月から児童用食料
(アレルギー物質が入っていないもの)と災害用トイレの備蓄を行う。保護者に負担は
お願ひし、使用しなかった場合は卒業時に返却する。

・委員

幼稚園と小学校の交流は、事前に打合せを行い、双方の職員が目的を共有して実施でき
たことが、とても良かった。園児は実際に小学校で体験させてもらい、入学を楽しみに
している子どもがいる一方で、「勉強は難しいのかな。」「給食は食べられるのかな。」
と不安な子もいる。

・会長

学校と地域人材をつなぐコーディネーターについては来年度も継続して検討していく。

(2) 今年度の学校評価アンケートについて

・副会長

資料を基に説明を行う。3年生から6年生の児童を対象に行ったアンケート結果及び全
世帯向けに行ったアンケート結果について、概ねどの項目も「そう思う」「だいたいそ
う思う」と回答している項目が多く、肯定的に捉えていることがうかがえる結果だった。
しかし、児童アンケートで「困ったことがあるときには、先生や友達に相談できる。」
という項目は肯定的に回答している児童が80%を下回っている。より一層子どもたちの
心に寄り添えるような環境づくりに努めなければいけない。学年の職員は、学年の児童
全員を育てる意識をもっている。児童には、担任以外にも学年の先生、養護教諭、児童
支援担当など職員誰でも相談できることを繰り返し伝えていく。また、保護者アンケ
ートでは、「学校は、子どもたちの考えや意見を聞いて、努力したことを認めている。」
や「学校は、生命や人権を尊重し、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。」
という項目においては、90%をやや下回っていることから、一人一人の児童が頑張っ
ていることにこれまで以上に目を向け、子どもたちが安心して学校生活を送ることが
できるように努力していく。

・委員

「あゆみ」について、小学校は3段階だが、中学校では5段階になり現実を感じ、小学
校とのギャップを感じる。

・委員

学校に来ると子どもたちは、よく挨拶をしてくれるし、明るい。「あゆみ」については、
小学校から中学校へ入った時にギャップがある。中学校によって平均点を出す出さない
やテストの難易度にも差があり、塾に行ってもテストを受けないと自分の力が分からない。
小学校の「あゆみ」のよさは、先生の言葉が子どもも保護者も励みになる。

・委員

児童アンケートで「困ったことがあるときには、先生や友達に相談できる」の結果は、
重視していかななくてはならない。保育園では、民生委員との世代間交流などが行われて

いる。小学校も世代間交流の機会があってもよいのではないか。

・委員

学校づくりアンケートの結果は、中学校と似ている。学校に楽しく行けていない子をどう支えるかということは課題としている。

・委員

保護者のお手伝い応募など、子どもにとって身近な人が教育現場に参加できる呼びかけはとてもよいと思う。今後も是非続けてほしい。

・委員

特にリソースルームの運営についての取組が大きな出来事だったと思う。学校に行ってみたいけれど、なかなか行くことができない子どもたちのために、学校が忙しい中、できることから始め、地域につなぎながら取り組んでいることに感銘を受けた。

・委員

大きく環境が変わる進学や進級と行った時に、学校へ行けなくなることがある。リソースルームができてよかった。学校だよりは、学校の様子や学校の方針がよく伝わってきた。

・委員

各学校から発信される不審者情報が学区によって差があった。なるべく詳しく教えてほしい。学区の違う保護者間でメール等のやりとりがあり、情報が回ってくる。情報に差があると学校不信につながりかねないと感じる。また、教員のお休みを心配している保護者がいる。先生方が元気であることは、子どもや保護者の安心につながる。

・副会長

不審者情報を発信する場合、教育委員会や警察と協議の上、当該校では、個人の特定につながらないよう配慮が必要なケースがある。

・委員

防犯や情報の出し方など参考になった。

4 その他 2025年度学校運営協議会委員の継続について

・副会長

2024年度から2025年度の2年任期の学校運営協議会委員に対して、2025年度委員の意思確認を行う。

以上